

# チーム名:たけのこおお

## 目次

1. きっかけ
2. 今ある教科について
3. 今勉強しているものは将来使うの
4. 提案①「アニメの活用」
5. 提案②「お金の使い方」
6. まとめに

## 初めに

今回、私たちは「これからの時代に必要な教科や科目」という探求テーマのもと、  
[アニメや漫画で学ぶ] [お金の使い方など、将来活用することを優先的に学ぶ]  
という結論になりました。

今の時代と状況を踏まえて、考えました。



監修 柿木心吾

文 園田唯衣

まとめ 石田智大

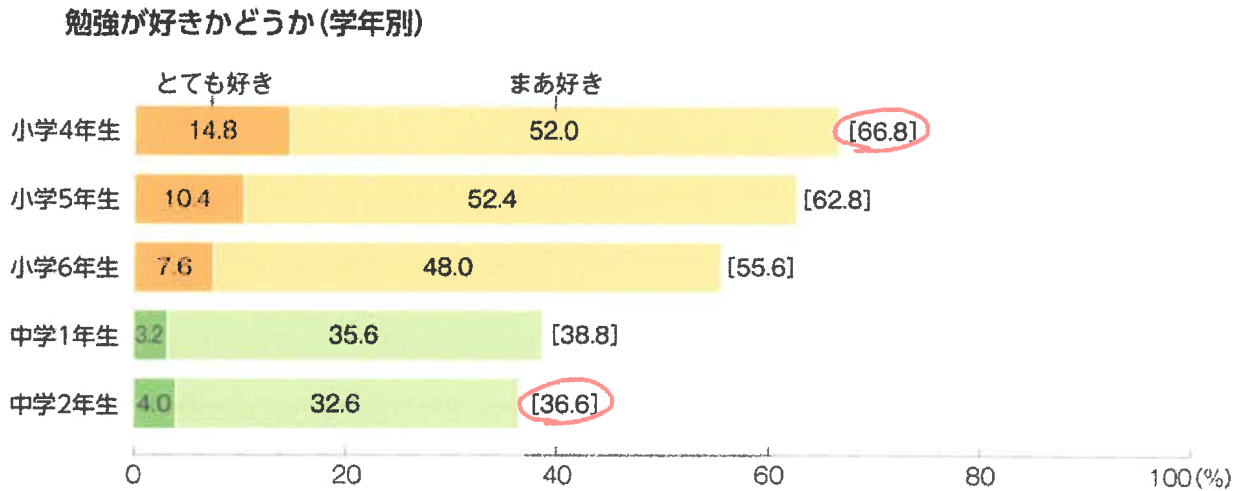
## 1.きっかけ

現在、私達は当たり前のように学校に行き、国語や理科、英語といった『これから必要になるもの』といわれている様々な教科を学んでいる。

しかし、誰もが「何故このようなことを学ぶ必要があるのか。」「他に学ぶべきことがあるのではないか。」と疑問にもったことがあるだろう。

教育総合研究所のアンケート結果を見ても(下の線分図)、年齢が上がるにつれ勉強が苦手になっていることが読み取れる。

そこで私達は、これから必要になるものを考えるのならば、まず今ある教科の必要性に向き合うべきだと思い、これらについて考えることにした。



(引用:ベネッセ教育総合研究所)

## 2.今ある教科について

現在私達が学んでいる教科について少し考えてみただけでも、私達の会話には「一次関数は必要なのではないか」「美術はこれから使うのか」というあからさまに必要性を見出せていない発言が飛び交った。例を出して考えてみよう。

理科 → 化学変化や植物の仕組みなどは将来使わない,研究者になるわけでもない

社会の歴史 → 歴史の流れや歴史人物をおさえても将来使わない,将来これに関する仕事には就かない

これらに共通することは、「将来使わない」と思っていることだ。

また、なぜ社会の"歴史"と絞ったかというと、社会の中でも公民や経済などは私達の将来に直接関わるものとして必要性を感じているからだ。

つまり、私達は全ての勉強に対して必要はないと感じてはいない。



### 3.今勉強しているものは将来使うのか

しかし、先程例にだしたものは本当に使わないのだろうか。

いや、違うだろう。社会の歴史は、昔を学ぶことでそれを現在の生活に生かし、役に立てている。これは私達の日常生活にも言える。一回失敗したことを学び、次は失敗をしないよう過去を生かす。これぞ「失敗は成功のもと」だ。

このように今私達が学んでいることは直接的には役に立たなくても間接的に役に立っている。けれどもそれを必要ないと思えるのはなぜだろう。それは、勉強に対して「面白さ」を感じていないからだと思える。

「面白さ」とは何なのか。どういうことかということ、勉強に面白さを感じないということは、勉強へのやる気や理解度、興味が低くなっているといえる。そうすると、勉強への関心が無くなり、どこで活用するかも考えないまま必要ないと思ってしまうというわけだ。

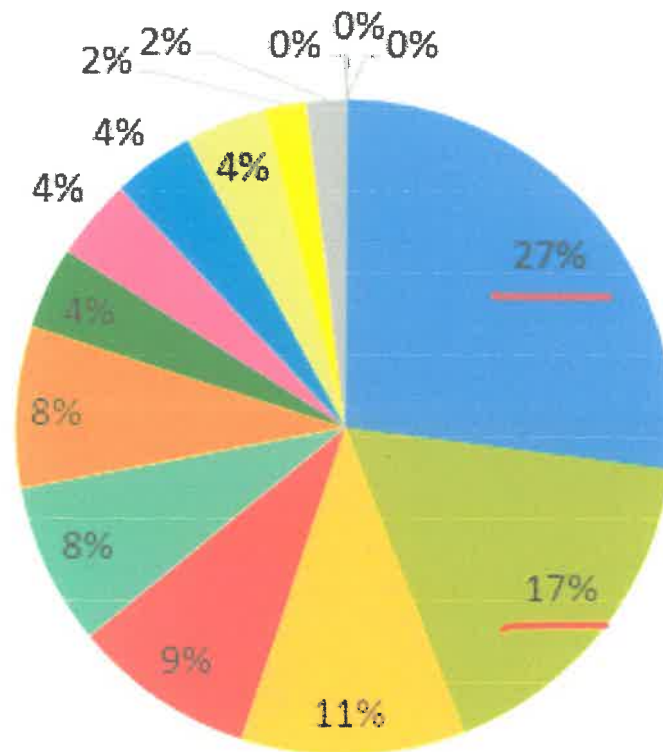


そこで私達から2つの案を提案する。

## 4.提案1「アニメの活用」

私達はより良い勉強について考えるために今の現状について調べた。

普段の勉強で最も悩んでいること



- やる気が起きない
- 上手な勉強のやり方が分からない
- どうしても好きになれない教科がある
- 勉強に集中できない
- 勉強したことをすぐ忘れてしまう
- テストでよい点数がとれない
- 勉強が計画通りに進まない
- 授業の内容が難しすぎる
- 何のために勉強しているのか分からない
- 覚えなければいけないことが多すぎる
- よい参考書や問題集が見つからない
- 親の期待が大きすぎる
- 授業の内容が簡単すぎる
- あてはまるものはない
- その他

(引用:ベネッセ教育情報)

すると、上の円グラフから分かるように、中高生は勉強というものに対して、真の目的(自分の夢のためや、味方・視点を広げるためなど)を見失っている。やる気が起きなかったり、好きになれなれなかったりしたら勉強なんて続かない。

①だからこそ、私達は「楽しく学べる勉強」つまり、「アニメで覚える勉強」を提案する。

アニメやドラマで学べるの?と思う人も少なくないだろうが、これが学べるのだ。

例えば社会。

社会の歴史は、時代の流れに沿って背景や出来事を理解するのは難しいうえ頭がゴチャゴチャになる。

しかし、近頃TVで放送されている「大河ドラマ」や、「歴史が学べる漫画」が大人気ということをご存知だる

うが。



これらは、「歴史を学ぶことができる漫画」である。

難しい教科書を丸暗記、という学び方もあるのだが、やはり理解しながらも楽しく学ぶために、身近にある「漫画」を活用するのが良いと考えた。

いくつかの塾でも、「最初は漫画で学ぶ方が最も理解できる近道だ」と述べている。

また、理科も例として出すと、これも地道に暗記で覚えるより、イメージしやすい漫画で勉強する方が頭にも残りやすい。



1

原作:原田重光  
漫画:初島屋一生  
監督:清水真「はたらく細胞」

はたらく細胞  
CELLS AT WORK! BLACK  
BLACK

MORNING KC



これは、今大人気である勉強漫画、「はたらく細胞」である。

理科の分野の「細胞,菌,体の仕組み」などはイメージがつきにくく暗記は難しい。そういう生徒や学生におすすめの本である。体の細胞を擬人化し戦闘漫画の様に描かれており、楽しみながら暗記することができる。

②さらに、アニメでは

- 人の生き方,人間関係
- 実際の社会の様子
- 経済の仕組みやマナー
- 何かが行われる過程
- 多様な意見や視点
- 問題が起こった時の対応
- 想像力な向上
- 人とのコミュニケーション



自分で考えて行動する力

これらも、期待することができる。

勉強への意欲を高めるのと共に、これからの時代に (私達が成長して) 必要になる力はこのようなものではないか。

他にも、アメリカ国立訓練研究所では、テキストだけよりも動画の方が2倍記憶の中に留まり続けると述べている。

それは、視覚に訴えかける映像と聴覚に訴えかける音声を掛け合わせているからだ。動画マーケティングで認知度が上がること (長期記憶の効果) もこの一つである。



以上から、提案1の結論として

教科書に漫画形式になっているページを作ったり、漫画自体を学習に取り入れたりすることで楽しく、イメージを持ちながら勉強への関心を高くしていく。

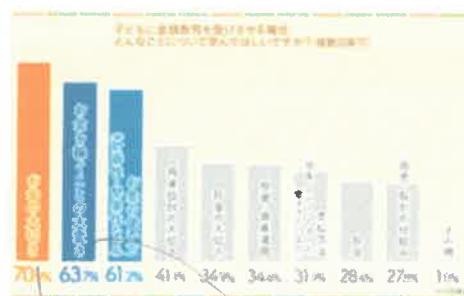
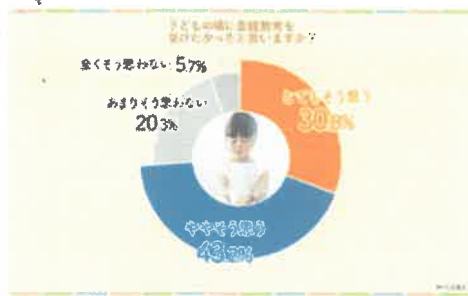
そして、今あるアニメに限らず勉強用のアニメをさらに作り、学習に活用することで、自分の行動のきっかけになったり、興味を引き立てたり、これから活躍する力を学び身につけるべきである。

## 5.提案2「お金の使い方」

① 将来、私達が避けることのできないお金の管理や使い道。

しかし、社会に出ていきなり自分達だけで行うとなるとリスクが大きいという戸惑うことが多くなる。





(引用:キッズ・マネー・スクール)

実際、アンケートによると7割以上の大人が「金銭教育を受けたかった」と回答している。

保険や貯金、節約、使い道、危険性、などなどお金についての知識や情報を使う場面は日常に多々ある。これらを小さな頃から身につけることで、これからの上手に生きることができるのではないか。

また、上の左グラフは、大人が子供に対して学んでほしいと思っていることについてアンケートをとったものだ。すなわち、その大人が学んでおきたかったこと、困ったことである。

また、世界を見てみよう。海外では、幼い頃からお金の教育を受けているようだ。その結果、金融知識に自信のある人の割合は、米国が日本の6倍以上も多い。

以上のことから、学校で金融教育について学ぶことで、これからの人生の選択肢が増やせたり、安定した生活を送れたり、生きるうえで大切なことを知れるのではないかと私達は考える。

## ②それならば、道徳や学活はどうなるだろう。

これらの教科でも、道徳心(自分と他者との関係性)、協力性(自主性)を学ぶことができる。まさに、生きるうえで大切な力である。

しかし、これらで学ぶことは限定的すぎではないかと私達は思う。

・体調,心の管理 ・恋人との関わり方 ・犯罪の起こる原因(きっかけ) ・常識 ・世界の現状 ・障害との関わり方

今あげたように、他にも学ぶことはたくさんある。また、これらは道徳などとは違うものだろう。

だから私達は金銭教育について話した様に、これから身につけておくべき力を見直し新たな学習科目を作るべきだと考える。

## 6.まとめ

この様に、私達は「アニメを活用した学習」「お金の使い方についての学習」の2つを提案する。

近未来のために、プログラミングなどを学ぶべきという意見は誰でも持っているものだろう。

しかし、これから人工知能(AI)が出てくるからこそ、"人間"にしかできないこと、感じられないことの問題点を直していくべきだと思う。今の現状を踏まえ、それらを解決していくことでもっとより良い環境を作ることが出来るのではないか。